

## コロンビア政治情勢（2024年10月）

### 1 概要

#### 【内政】

- (1) 政府、「国家合意」のためのアジェンダを提示
- (2) 国家選挙審議会によるペトロ大統領選挙キャンペーン不正資金疑惑の告発及び調査の開始
- (3) ELN の動向
- (4) 政府、和平合意履行促進のための行動計画「ショック・プラン」を発表
- (5) EMC との一時停戦合意延長
- (6) コカ栽培増加に関する報告書
- (7) 小規模鉱山労働者及び農民による抗議活動
- (8) セグンダ・マルケタリアの指導者イバン・マルケス死亡に関する報道
- (9) 自由党大会、ガビリア元大統領を党首に選出
- (10) 世論調査

#### 【外交】

- (1) マルケス副大統領、ハーバード大学より表彰される
- (2) レバノンへの人道的フライト
- (3) ロハス外務副大臣、中国の一带一路構想参加について言及
- (4) コロンビア、国連人権理事会の理事国として選出される
- (5) ムリージョ外務大臣、ドイツ及び中国を訪問
- (6) 国連安保理コロンビア和平会合
- (7) コロンビア、生物多様性条約 COP16 を開催
- (8) コロンビア・ベネズエラ関係
- (9) 国連安保理、コロンビア和平検証ミッションのマンデートを1年延長

### 2 本文

#### 【内政】

- (1) 政府、「国家合意」のためのアジェンダを提示

4日、クリスト内務大臣は、コロンビアにおける暴力との闘い及び民主主義促進のため、国内各セクターに対する「国家合意」案を提示した。同案は、①治安の確保と政治的暴力の根絶、②選挙に関する規則及び選挙日程の尊重、③紛争の影響を受けた地域の改革、④公正な経済成長と経済の変革、⑤社会改革に関する議会審議をその内容とする。

(2) 国家選挙審議会によるペトロ大統領選挙キャンペーン不正資金疑惑の告発及び調査の開始

8日、国家選挙審議会は、ペトロ大統領選挙キャンペーン不正資金疑惑を告発し、調査の開始を決定した。2022年大統領選挙において、ペトロ候補陣営に計53億ペソの献金未申告や経費不記載等があったとして、ペトロ大統領を含む選対関係者に対する調査が行われることとなった。ペトロ大統領は、大統領免責特権を侵害するクーデターとしてこの決定に強く反発した。

(3) ELNの動向

24日、政府との和平交渉及び一時停戦合意を中断しているELNは、ノルテ・デ・サンタンデール県において軍人を狙撃して死亡させた他、爆発物により警察官2名を殺害した。他方、27日、コロンビア政府は、11月初めにELNと和平交渉再開のための事前会談を行うことを発表した。

(4) 政府、和平合意履行促進のための行動計画「ショック・プラン」を発表

15日、国連安保理コロンビア和平会合において、クリスト内務大臣は、2016年和平合意履行促進のための行動計画「ショック・プラン」を発表した。同計画は、①変革のための地域的取決め、②総合的農村改革、③和平のための議会アジェンダ、④地域の安全に向けた調整、⑤政治的同意のための国民合意をその内容とする。

(5) EMCとの一時停戦合意延長

16日、政府は、EMCの一派である「カラルカ」派との一時停戦合意を半年間延長した。これにより、同合意は2025年4月15日まで継続することとなった。

(6) コカ栽培増加に関する報告書

19日、国連不正作物監視システム(SIMCI)報告書が公表されたが、同報告書によれば、コロンビアにおけるコカ栽培は2022年の23万ヘクタールから25万3千ヘクタールへと増加しており、潜在生産量も1738トンから2664トンへと急増している。また、コカ生産量の増加に伴い、その押収量も746トンとなりこれまでの記録を更新した。

(7) 小規模鉱山労働者及び農民による抗議活動

21日から25日、計約3万人の小規模鉱山労働者及び農民が、政府による環境保護規制に反発し国内各地の幹線道路で抗議活動を行い、一部経済活動や市民生活に影響が及んだ。これを受け、政府は抗議団体側と交渉を開始し、25日に抗議活動が終了した。

(8) セグンダ・マルケタリアの指導者イバン・マルケス死亡に関する報道

23日、ベネズエラのカラカスでセグンダ・マルケタリアの指導者イバン・マルケスが死亡したとの報道がなされた。これを受け、パティニョ和平高等弁務官は右情報に関する真偽を確認しているとしつつ、同氏が死亡していない可能性もある旨述べた。

#### (9) 自由党大会、ガビリア元大統領を党首に選出

31日、自由党が党大会を開催し、党员による投票の結果、セサル・ガビリア元大統領が党首として選出された。なお、党の世代交代を訴え、結果に不満をもつ一部の参加者が警備との間で小競り合いになるなど、緊張感の漂う党大会となった。

#### (10) 世論調査

インバメル社世論調査によると、ペトロ大統領の支持率は8月から10月にかけて29%から34%へと上昇し、不支持率は66%から61%に低下した。また、大統領府は、コンサルティングセンターと独自に契約をした世論調査の結果を発表したが、同調査によれば、ペトロ政権の支持率は50.7%、不支持率は42.3%であった。

### 【外交】

#### (1) マルケス副大統領、ハーバード大学より表彰される

1日、ハーバード大学は、アフロ系文化振興への貢献を認め、フランシア・マルケス副大統領に対しW.E.B. Du Bois賞を授与した。受賞スピーチでマルケス副大統領は、コロンビアにおける社会正義と平和のための闘いについて述べた。

#### (2) レバノンへの人道的フライト

3日及び21日、コロンビア政府は、イスラエルの侵攻により内政状況が混乱したレバノンに人道支援ミッションを派遣し、救援物資を贈ると共に、計222人の在留コロンビア人帰還を支援した。

#### (3) ロハス外務副大臣、中国の一带一路構想参加について言及

3日、ロハス外務副大臣は、コロンビア政府が中国の一带一路構想に参加する意向を有している旨表明した。これに対し、国内では、戦略的経済パートナーを増やす好機と捉える論調が聞かれた一方、債務リスク等に対する慎重論なども聞かれた。

#### (4) コロンビア、国連人権理事会の理事国として選出される

10日、コロンビアが国連人権理事会の理事国として選出された。2025年からコロンビアは初めて同理事会理事国として就任することとなる。

#### (5) ムリージョ外務大臣、ドイツ及び中国を訪問

6日から8日、ムリージョ外務大臣はドイツのハンブルクを訪問し、シュミット首相府長官との会談では、移民問題に関する二国間パートナーシップ等について協議した。また、9日から11日には中国を訪問し、王毅外交部長等との会談では、コロンビアと中国の二国間関係拡大やコロンビアの一带一路構想参加に向けた協議を行った。

(6) 国連安保理コロンビア和平会合

15日、ムリージョ外務大臣及びクリスト内務大臣は、国連安保理コロンビア和平会合に出席した。同会合において、クリスト大臣は、和平合意履行促進のための行動計画「ショック・プラン」を発表した。

(7) コロンビア、生物多様性条約 COP16 を開催

21日から11月2日、コロンビア政府は、カリ市において生物多様性条約 COP16 を開催した。同会合ではカリ基金の設立が合意された他、「自然とともにある平和 (Paz con la Naturaleza)」宣言が採択された。

(8) コロンビア・ベネズエラ関係

28日、ムリージョ外務大臣は、生物多様性条約 COP16 参加のためにコロンビアを訪問したヒル・ベネズエラ外務大臣と外相会談を行った。その後、30日、ムリージョ外務大臣は、ベネズエラ大統領選挙に関し、投票証書の開示がなければ選挙結果を承認しないとの立場を表明した。これに対し、ヒル外務大臣は、ベネズエラに対する内政干渉として強く反発した。

(9) 国連安保理、コロンビア和平検証ミッションのマンデートを1年延長

30日、国連安保理は、コロンビア和平検証ミッションマンデートを1年延長することを全会一致で決定し、コロンビア政府と引き続き和平問題において協力していく意思を表明した。コロンビア政府はこの決定を歓迎し、引き続き和平合意履行に尽力する旨表明した。

(了)